

廃墟の守備隊 (1952)

LAST OF THE COMANCHES
THE SABRE AND THE ARROW

メディア 映画

ジャンル 西部劇 アドベンチャー

製作国 アメリカ

色彩 Color

時間 85分

初公開日 1953/01/14

公開情報 COL

【解説】

インディアンがただ殺される映画はそれだけで減点したい気持ちだが、この作品は一捻りも二捻りもある上、画面構成もさり気なく凝った箇所が多く、効果的なロケ撮影で、上出来の作品となっている。監督のド・トスはその後、片眼なのに3D映画の先駆け「肉の蠟人形」を撮ったり、以前にはアレクサンダー・コルダの下で「ジャングル・ブック」等の第二班監督を務めるなど、変わった経歴の亡命ハンガリー人で、あのブロード美人ヴェロニカ・レイクの最初の旦那である。

いきなり映画は大物量の戦闘シーンから始まり、コマンチの大群に全滅させられた部隊と焦土と化した町を写し出す。ただ六人生き残ったトレイナー軍曹（クロフォード）率いる分隊はゆらゆらと砂漠を往く。自軍のいる砦を目指して、途中出交わした駅馬車一行と総勢11名で僅かな水を分け合いながら……。途中、怪しげな博奕打を拾ったり、一人が乾きから死んだりして、コマンチに捕われたが逃げ出してきたというキオア族の少年も仲間に加える。彼、リトルナイフ（スチュワート）は古のスペイン人の村の近在唯一の井戸を彼らに教え、そこで細々と沸く水を一行は貯える。その間に敵の斥候を捕えるが、連中をおびき寄せるため放免にする。そして、既に涸れた水をさも大量にあるかに見せかけて、彼らをそこに釘付けにし、リトルナイフを援軍を求めに走らせる。交渉の間も小競り合いは続き、一人また一人と敵の矢や銃弾に倒れるが、間一髪で伝令が間に合い、高らかな進軍ラッパと共に騎兵隊が駆けつける。夕陽で人物がシルエットになる描写や、夜営場面や砂漠の本物っぽさ、B・ヘイルの紅一点の逞しい美しさも素晴らしい。

【クレジット】

監督	アンドレ・ド・トス	Andre de Toth	
製作	バディ・アドラー	Buddy Adler	
脚本	ケネス・ガメット	Kenneth Gamet	
撮影	チャールズ・ロートン・Jr	Charles Lawton Jr.	
	レイ・コリー	Ray Cory	
編集	アル・クラーク	Al Clark	
音楽	ジョージ・ダニング	George Duning	
	モリス・W・ストロフ	Morris W. Stoloff	
出演	ブロデリック・クロフォード	Broderick Crawford	マット・トレイナー軍曹
	バーバラ・ヘイル	Barbara Hale	ジュリア・ランニング
	ロイド・ブリッジス	Lloyd Bridges	ジム・スターバック
	ジョニー・スチュワート	Johnny Stewart	リトル・ナイフ
	マーティン・ミルナー	Martin Milner	ビリー・クリール
	ジョン・ウォー・イーグル	John War Eagle	ブラック・クラウド

ミッキー・ショーネシー	Mickey Shaughnessy	ラスティ・ポッター
ジョージ・マシューズ	George Mathews	ロマニー・オーラティガン
ヒュー・サンダース	Hugh Sanders	デンヴァー・キネアード
リック・ローマン	Ric Roman	マルチネス
チャビー・ジョンソン	Chubby Johnson	ヘンリー・ルパート